

科目名	居住環境論				
授業形態	講義	学年	2		
開講時期	2023年度 後期	単位数	2		
担当教員	柴崎 恭秀				
内容および計画	居住環境とは、われわれの住空間において温度や湿度などの物理的環境以外に、光や風景などがもたらす心的影響も含めて定義される。この物理的環境と心的環境のうち、前者は建築設備として語られることが多く、近年では機械制御や気密性の問題として扱われている。そして後者は住空間として重視されながらも室内空間とは切り離されて個別のものとして扱われることが多かった。ここでは住空間を軸にこの2つの環境をもう一度、環境工学と自然との関係から捉え直し居住環境としてどうあるべきかを論じる。また、日本人独自の居住環境の捉え方を文学や文化論の中からも抽出して題材としていく。				
1	ガイダンス・課題説明・居住環境について総論				
2	空気の流れを考える[換気について]				
3	熱を伝える・遮断する[伝熱・結露について]				
4	日差しをコントロールする[日照・日影・日射について]				
5	日差しを採り入れる[採光について]				
6	居住空間を彩る[色彩について]				
7	音・振動を制御する[音響について]				
8	環境工学融合				
9	居住空間を温める・冷やす[空気調和設備について]				
10	水を送る・使う・排水する[給排水衛生設備について]				
11	住宅と電気[電気設備について]				
12	居住空間と灯り[照明設備について]				
13	火事・災害に備える[消火・防災設備について]				
14	環境・設備融合				
15	日本人と居住環境について考える				
教科書					
	タイトル	著者名	出版社	ISBN	発行年
	陰翳礼讃	谷崎潤一郎(著), 大川 裕弘(写真)	パイインターナショナル	4756250122	2018
その他、適宜配布					
参考書	1)建築図解辞典編集委員会 「図解辞典 建築のしくみ」 彰国社 2)ソフトユニオン「世界で一番やさしいエコ住宅 110のキーワードで学ぶ29」 エクスナレッジ				
成績評価					
	評価方法				割合(%)
	終了考査				40
	提出課題等				40
	出席状況(受講状況を含む)				20

学習到達目標	われわれの居住環境について、周辺環境を活かしながら住宅に取り入れる方法や制御方法について、環境工学的な視点に合わせて、地域性や民家の知恵等からも学び、日本の地域に根ざした居住環境の在り方を考察する。
先修条件	なし
実務経験	実務経験あり:大手設計事務所にて勤務後、設計事務所を設立。キャンパス計画や集合住宅、住宅等のインテリア・建築デザインに15年以上従事してきた。一級建築士として25年以上の経験を有す。この経験をもとに、インテリアデザイン、建築デザインの基礎、応用について教授する。
その他	必須・選択の別:選択